

第3学年 英語科 学習構想案

日時 令和6年10月11日(金) 第2校時
 場所 3年1組教室
 指導者 教諭 前田 扶美

I 単元構想

単元名	Unit 4 Be Prepared and Work Together (東京書籍『New Horizon 3』pp.57~66)		
単元の目標	(1) 間接疑問文とSVOO (what節)の文、現在分詞・過去分詞を用いた文の形・意味・用法を用いた、様々な情報を読み取ることができる。【知識・理解】 (2) 避難所計画について、旭志に新しく赴任したALTに伝えるために、必要な情報を整理し、伝えることができる。【思考・判断・表現】 (3) 相手に配慮しながら、英語を用いて防災や避難所計画について、伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【読むこと】(ウ) 間接疑問文とSVOO (what節)の文、現在分詞・過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、災害に関する情報を読み取ることができている。	【話すこと(発表)】(ウ) 地域の一員として防災や避難所について意識を持ち、外国人支援や子ども支援、避難所運営について、簡単な文を用いて伝えたり、書いたりできる。	【話すこと(発表)】(ウ) 地域の一員として防災や避難所について意識を持ち、避難所運営等について、ALTに伝えようとしている。
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
新しく旭志中に赴任したALTや菊池に住んでいる外国人の方に対して、旭志中の避難所計画について、外国人支援や子ども支援、高齢者支援のことを配慮しながら情報を整理し、伝える生徒。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
Love&Laugh 芝生広場を避難所に! ~避難所構想計画をたてよう~		様々な立場の人たちが利用する避難所であることに配慮し、実際の避難所運営計画について、現実に使えるものであるか、また相手に伝わりやすいような内容や表現になっているか考えること。	
指導計画と評価計画(11時間取り扱い 本時6/11)			
見通し・知識・技能の習得	1	2	3
	○単元の目標を確認する。 ○間接疑問文の使い方や意味について理解し、Unit 4-1のアンケート結果を読み取る。 【具体的評価規準】(知識・技能) ワークシート、行動観察	○動詞+人+whatなどで始まる節の使い方や意味について理解し、身近な人やものについてクイズを作成し、伝え合う。 【具体的評価規準】(知識・技能) ワークシート、行動観察	○現在分詞や過去分詞を用いた文の使い方や意味について理解し、自分の紹介したい人やものについて詳しい情報を加えた文を考える。 【具体的評価規準】(知識・技能) ワークシート、行動観察
	4	5	6(本時)
	○Unit 4-3 本文の意味を理解し、文構造を確認する。本文に出てきた事象から「外国人支援」について意見を出し合う。 【具体的評価規準】(知識・技能) ワークシート、行動観察	○Unit 4-4 本文の意味を理解し、文構造を確認する。本文に出てきた取組内容から身近な災害対応について考える。 【具体的評価規準】(知識・技能) ワークシート、行動観察	○防災や災害について事前に質問を作成し、防災士の資格を持った教員から話を聞く。 【具体的評価規準】(態度) パワーポイント、行動観察

	7、8	9	10、11
活用	<p>○災害への備えや避難所運営計画についてプレゼンテーションを作成する。</p> <p>【具体の評価規準】(思・判・表) 行動観察、パワーポイント</p>	<p>○災害への備えや避難所運営計画についてのプレゼンテーションを ALT に向けて発表する。同時に動画撮影も行う。</p> <p>【具体の評価規準】</p> <p>★【知識・技能】(動画) 今まで学習した言語材料を用いて、正しい英語で伝えている。</p> <p>★【思考・判断・表現】(動画) 赴任したばかりの ALT に伝えるために、相手に伝わりやすい内容や表現を用いて発表している。</p> <p>★【態度】(動画) 赴任したばかりの ALT に伝えるために、相手に伝わりやすい内容や表現を用いて発表しようとしている。</p>	<p>○前時の ALT からのフィードバックをもとに、地域においてもらうパンフレットやプレゼン資料を作り直す。</p> <p>【具体の評価規準】</p> <p>★【思考・判断・表現】 ALT からフィードバックを踏まえて、伝わりやすい内容や表現を用いてパンフレットやプレゼン資料を作成している。</p> <p>★【態度】 ALT からフィードバックを踏まえて、伝わりやすい内容や表現とは何かを考え、パンフレットやプレゼン資料を作成しようとしている。</p>

2 単元(題材)における指導計画と評価計画及び系統

学習指導要領における該当箇所	
<p>中学校学習指導要領 第3学年 2「内容」</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項</p> <p>エ 文、文構造及び文法事項</p> <p>(イ) 文構造 c(c) 主語+動詞+間接目的語+what などて始まる節</p> <p>(ウ) 文法事項 i 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>(1) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝えあったりすることに関する事項</p> <p>(ウ) 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。</p> <p>(2) 言語活動及び言語の働きに関する事項</p> <p>① 言語活動に関する事項</p> <p>ウ 読むこと</p> <p>(エ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。</p> <p>オ 話すこと〔発表〕</p> <p>(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。</p>	
教材・題材等の価値	
<p>本単元では、防災・安全をテーマに外国人支援の視点から取組等が紹介されている。単元のゴールに向けて「Love&Laugh 芝生広場を避難所に!～避難所構想計画をたてよう」というテーマを与え、地域における災害支援や防災について考え、地域に根ざした避難所計画について考えていく。3 年前から先輩方が行っている「笑顔プロジェクト」を理解し、さらにはゲストティーチャー(防災士の資格を持った教員)の話聞き、地域や自分たちのくらしを主眼に入れて SDGs の視点で話を聞き、その活動への意欲を高めることができる。また、新しく赴任した ALT の先生という身近な外国人の方の質問や困りごとを直接聞き、活動に具体性を持たせ、自分との関わりがある人のための活動になることを意識することができる。先輩の思いを引き継いでいく、ということも踏まえて、英語科の学習を活かした計画を考えていくことで、意味を持った学習活動になると考える。</p>	

本単元における系統

【小学校】
6年生 This is my town.
自分の町にあるものやそこでできることを紹介することができる

【中学校1年】
Unit 4 Friends in New Zealand
相手に指示したり、時刻や好きなものをたずねたりすることができる

【中学校2年】
Unit 2 Food Travels around the World
好きなものやその理由について、紹介することができる

【中学校2年】
Unit 3 My Future Job
自分が体験したことや学んだことについて、たずねたり伝えたりすることができる

【中学校2年】
Unit 4 Homestay in the United States
習慣やマナーについて、たずねたり伝えたりすることができる

【中学校3年】
Unit 4 Be Prepared and Work Together
避難所計画を伝えることができる

生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（単位：人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
日本や菊池のことを日本語または英語で紹介できる。	16	9	5	0
防災や避難所について知っている。	3	10	17	0
菊池に住んでいる外国人が増えていることを知っている。	5	20	5	0

■本単元を学習に関する意識の状況（単位：人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
英語を話す活動が好き。	12	13	2	3
英語を書く活動が好き。	10	12	4	4
知っている英語の表現を使って、説明したりまとめたりすることができる。	8	12	6	4

■考察

学ぶ意欲の高い生徒が多く、生徒主体のセルフ授業スタイルで学習する機会を定期的に設け、自分たちで課題を解決していく姿勢を高めている。2年生時から、インドネシアの中学生とのオンライン交流も継続しており、その中で日本や熊本、旭志中の魅力や良さを発信している。その活動を通して、改めて地域のことや日本文化を知り、「世界の中の日本」「世界に生きるわたしたち」を体感し、自分や身近な暮らしを振り返る機会となっている。

3 指導に当たっての留意点

【研究テーマ】 生徒が主役として輝く学校づくり
～全員参加型の学習活動と特別活動等の工夫を通して～

【仮説について】

- 菊池市スタンダードの視点を取り入れ、「熊本の学び」を基にした授業づくりを行うならば、自ら学ぼうとする意欲を高め、基礎・基本的な学力を身につけることができるであろう。
- 生徒が達成感を感じられるような特別活動を主とした取組を行うならば、自らの考えを発信しようとしたり、見通しをもって計画的に物事を進めたりする力が身につくであろう。

【人権教育の視点】

- 授業の流れを掲示することで見通しを持たせ、次の活動がわかるような授業づくりにつなげる。
- 支持的な雰囲気の中で、意見を出し合い、認め合うことを通して、互いに学び合うことにつなげる。

【ESD の視点(見方・考え方)】

- ・多様性:年齢や文化、地域、家庭状況によって必要なものは違っている。
- ・連携性:様々な考えを共有し、協力していくことで同じ目標に向かって作り上げていくことができる。

【ESD で育てたい資質・能力】

- ・批判的に考える力(Critical Thinking)

既存の防災マップや行政情報から私たちの地域、生活に本当に必要なものは何なのかを考え、整理する。

- ・未来像を予想して計画を立てる力

もしも災害が起きて避難所となった場合、本当に利用できる計画を立てる。

【ESD で育てたい価値観】

- ・人権・文化を尊重する。(文化多様性の尊重)

同じ地域に暮らす人々の中には、子どもや障がいを持った人、外国にルーツがある住民、など様々な立場の人がおり、家庭状況も違っている。そんな違いを受け入れ、共にくらしていることを大切に考えていきたい。

【関連する SDGs】



【板書計画】

<p>タイマー</p> <p>Today's menu</p> <ol style="list-style-type: none">1. めあて2. 植嶋先生の話3.ポイント4.Think&Speak <p>避難所計画</p> <ol style="list-style-type: none">5.振り返り	<p>単元 Goal: Love&Laugh 芝生広場を避難所に!～避難所構想計画をたてよう</p>
	<p>めあて: 植嶋先生の話聞いて、防災計画のアイデアをアップデートしよう。</p> <p>ポイント</p> <p>How can we help each other in a disaster?</p> <p>写真 パンフレット 写真</p> <p>使えそうな表現</p> <ul style="list-style-type: none">・ Do you know where the local shelter is?・ This sign tells you where you can find ().・ This is () given in English.

【ICT活用計画】

例:教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画 など

- ・PP を使って視覚的に例文やポイントを確認する。
- ・音声や文字だけでは理解が難しい場合、写真やイラストを示すことでヒントとなるようにする。
- ・UD の視点より、今、やっていることやしなければならないことを視覚的に確認できるようにする。

4 本時の学習(6/11 時間目)

(1) 目標

防災士の資格を持つ先生の話聞き、自分の疑問を解決するとともに避難所計画の概要を考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 Warm Up ① あいさつ ② クラスの質問を確認する	○事前アンケートに書いた「植嶋先生(防災士資格を持つ)への質問」を全体で共有する。
展開	40分	2 めあて、今日の学習の流れの確認 【めあて】植嶋先生の話聞いて、防災計画のアイデアをアップデートしよう。	○やりとりを通してめあてを具体的に確認する。 ○How can we help each other in a disaster?の視点を持つことを意識させる。
		3 植嶋先生(防災士)のお話 ①植嶋先生(防災士)のお話を聞き、疑問を解決するとともに、防災や避難所計画を考えるにあたって大切なことを理解する。 【学習課題】 防災計画を立てるときに大切なことはなんだろう。 ②グループで「防災計画」を考える。 【期待される学びの姿】 自分たちの持っていた疑問や防災士の先生の話聞いた内容を取り入れて計画をたてようとしていようとしている。	○パワーポイントを使い、視覚的に確認しながら防災のことについて理解できるようにする。 ○話を一方的に聞くだけでなく、クイズやグループワークを取り入れて、生徒の意見を取り入れて防災の話すすめる。また、後の活動で使えるキーワードをクイズの中に取り入れておく。 ○どんなことができるか、なぜそのような計画をたてたのか等、具体的に説明できるように伝える。 【具体の評価規準】【話すこと(発表)】(ウ) 地域の一員として防災や避難所について意識を持つために、外国人支援や子ども支援、避難所運営について、簡単な文を用いて伝えたり、書いたりできる。 (方法:行動観察、パワーポイント) 【到達していない生徒への手立て】 ○班活動を行い、生徒同士で学び合うようにする。 ○昨年3年生がつくった防災についてのPPを示すことで、これからの活動の参考にし、ゴールの姿を示す。 ○モデル文やキーワードを補足して、伝えたい内容を表現できるように支援する。
終末	分	4 学習のまとめを行う。 【まとめ】 ・How can we help each other in a disaster?の視点を持つ ・伝える人(Kristen)がは必要としている情報や伝え方→英語、やさしい日本語	
		5 本時の振り返りを行う。 感謝・報告・決意の3つの観点で振り返る。	○指導者から活動に対する気付きを述べる。 ○次の時間に向けての確認をする。